

府は戦争加担をやめよ

残虐・非道なポルポト軍支援の 医師・看護婦派遣を中止せよ

府は、タイのカンボジア難民キャンプに府立医大の医師、看護婦の派遣を決めました。共産党・革新共同議員団は、これは旧ポルポト軍支援の戦争加担で、戦時立法法制化への先どりでもあり、中止するよう知事に申し入れました。その全文は次のとおり。

カンボジア難民キャンプへの医師、看護婦の公務出張の中止を求める申し入れ

京都府は、タイ国のカンボジア難民キャンプにある「日本メディカルセンター」に、京都府立医科大学の医師六人、看護婦十二人を五月十二日から三ヶ月間派遣することを決定し、すでに第二外科の職員を現地調査に派遣した。

難民救援、邦人殺さる
カンボジア、タイ国境、強盗に撃たれ

邦人ボランテア殺される
カンボジア国境

タイの難民キャンプに強盗



この難民キャンプが、カンボジア国内で人口の三分の一をこえる三百万人以上の人びとを虐殺した旧ポルポト軍の治療や休養、戦闘要員や食糧の補給地として利用されていることは、周知の事実である。

このような補給地に府職員を派遣して戦闘を支援することは、明らかに戦争への加担であり、残虐なポルポト軍へのきびしい批判が高まっている国際世論に挑戦するものである。国際赤十字に於ても戦闘のために援助はしないとの赤十字の精神と、武装集団による略奪、放火など治安が悪いことから昨年七月以降派遣を中止しており、今回の京都府の派遣計画の不当性は明らかである。

また政府・防衛庁の有事法制研究の「中間報告」のなかで、有事のさい「従事命令書」一致でいつでも、看護婦、薬剤師など医療関係者を徴用できるとしているが、今回の派遣はこうした戦時立法法制化への先どりとしても、極めて重大である。

したがって、わが議員団は、京都府が今回の医師、看護婦の派遣計画をただちに中止するよう、強く求めるものである。

▲治安の悪い難民キャンプ

医療法人「十全会」グループ病院の不正請求の調査をめぐって厚生省と京都府が対立し、不正請求のほか、無資格者による診療などもウヤムヤになる恐れが出てきたと報道されています。

十全会病院の不正請求

京都府が調査拒否

厚生省と対立

厚生省が京都府に対し水中機能訓練の不正請求について期間、不正請求額の詰め調査を求めたところ、京都府は「拒否」の態度を示した。

健康保険法などでは治療行為であることをはっきりさせるために、医師が立ち会っていない場合の請求は認めない。

京都府が二月の赤木孝理事長(当時)一族の退陣勧告で十全会問題は一件落着いたはず。厚生省も了承しているのに今さら不正請求を持ち出すのはおかしい(野中副知事)と調査を拒否したのが原因。これに対し厚生省は「そういう約束はしていない。勧告と不正請求は別問題」と追及する方針を変えていない。不正請求をめぐり都道府県と厚生省がはつきりと対立したのは、初めてのケースである。不正請求額については国会で、水中機能訓練だけでも「ここ四年間で三億円近い」と指摘されている。

また「十全会」グループが、赤木理事長時代に組織的な無資格検査や治療を続けていた疑いで、京都府警保安課は四月二十一日から「保健婦助産婦看護婦法」違反の疑いで本格的な捜査を始めた。

京都府警のこれまでの捜査でも十全会では約五十人の医療秘書が血圧測定などをやっており「血圧測定手当」「機能訓練手当」名目で毎月五千円を医療秘書に支給していることなど、病院ぐるみの同法違反の疑いが濃厚となっている。疑惑解明は京都府の調査いかんにかかっており、不正請求のほか、無資格者による診療などもウヤムヤになる恐れが出てきた。(毎日新聞より)

厚生省は水中機能訓練で医師が立ち会っていないのに請求しているケースがあるのを突きとめたが、